令和７年度第２回さいたま市公共事業評価審議会_資料２

事業評価（案）

評価時点：事後評価

計画名称：社会資本総合整備計画事業

・活力ある都市活動を支える都市基盤の整備（第２期）

《都市局まちづくり推進部市街地整備課》

（様式２）

公共事業評価調書《事後評価・社会資本総合整備計画事業》

（１）概要

計画(事業)の名称	活力ある都市活動を支える都市基盤の整備（第２期）
計画(事業)の期間	H31～R5（５年間）
計画の目標	１.無秩序な市街地拡大を抑制しながら適切に土地利用の増進を図り、市街地開発事業や都市基盤整備により、ゆとりある良好な生活環境の形成を目指す。 ２.商業・業務機能の集積や都心居住の推進など、土地の高度利用を進めるとともに、交通結節点や都市機能施設へのアクセス道路の整備により、集約・ネットワーク型都市構造を実現する。 ３.交通渋滞の緩和に向けた幹線道路の整備を促進するとともに、歩行者・自転車に配慮した安全で快適な道路空間を創出することにより、人と環境に配慮した質の高い都市交通基盤づくりを促進する。
計画の成果目標（定量的指標）	指標１：市街地開発事業が実施される地域における人口の増加
	指標２：交通結節点である駅における1 日あたり平均利用者数（乗降客数）の増加
	指標３：事業が実施される地域における交通事故（歩行者・自転車）の発生件数

定量的指標の定義及び算定式			定量的指標の現況値及び目標値		
			当初現況値（年度）	中間目標値（年度）	最終目標値（年度）
	指標①	市街地開発事業実施地域人口	174,662 人（H30）		192,261 人（R5）
	指標②	対象駅における１日当たり平均利用者数	1,197,590 人（H28）		1,226,393 人（R5）
	指標③	事業実施地域における交通事故発生件数	337 件（H30）		287 件（R5）

全体事業費	合計(A+B+C)	106,324（百万円）	A	106,324（百万円）	B	0（百万円）	C	0（百万円）

（２）事業効果の発現状況、目標値の達成状況

Ⅰ　定量的指標に関連する交付対象事業の効果の発現状況	・基幹事業である市街地整備事業及び住環境整備事業が進捗し居住環境が向上したことで、地区内人口が増加した。（H30:174,662人→R5：182,639人（+4%）） ・事業実施地域人口・対象駅における一日当たり平均利用者数は、コロナ禍の外出自粛により大幅に減少した。（H28：1,197,590人→R5：1,167,290人(-3%)） ・基幹事業である道路事業が進捗したことで、歩行者・自転車の交通事故発生件数が減少し、安全で快適な道路空間の創出が図られた。（H30：337件→R5：273件（-15%））

Ⅱ　定量的指標の達成状況	指標①	最終目標値	192,261 人	目標値と実績値に差が出た要因	人口については、事業の進捗状況に左右され、区画整理事業では保留地処分が進まなかった地区があったこと、再開発事業では施設建築物が建たなかったため、人口が伸び悩んだと考えられる。 市平均よりは高い人口増加率となっていることから、事業効果は発現していると考えられる。
		最終実績値	181,942 人		
	指標②	最終目標値	1,226,393 人	目標値と実績値に差が出た要因	駅の乗降客数については、コロナ禍の外出自粛の影響で乗降客数が大きく減少し、回復しきれなかった。 事業は進んでおり、都市交通の基盤整備が進んでいるため、事業効果は発現していると考えられる。
		最終実績値	1,167,290 人		
	指標③	最終目標値	287 件	目標値と実績値に差が出た要因	事故の発生件数について、目標は達成できなかったが、従前値よりは減少していること、大字単位ではなく事業地区内のみで評価した場合は件数が少なくなっていることから、事業効果は発現していると考えられる。
		最終実績値	311 件		
Ⅲ　定量的指標以外の交付対象事業の効果の発現状況(必要に応じて記述)					

（３）今後の方針

・指標目標については達成できなかったが、事業の目標達成に向かっては着実に進んでいるので、次期計画で継続して事業を進めさらなる効果促進を図る。
・今回の事後評価を通して、目標指標の設定の見直しを検討した方がよいことが判明したため、次回の計画策定時に考慮する。

2

（様式２）

（４）交付対象事業の詳細

A　道路事業（基幹事業）

番号	要素となる事業名（事業箇所）	事業種別	事業内容（延長・面積等）	事業実施年度						全体事業費（百万円）	備考
				H31	R2	R3	R4	R5			
1	南与野駅西口地区（南与野駅西口駅前通り線、外）	街路	区画整理 A=14.7ha	■	■	■	■			512	
2	南与野駅西口地区（南与野駅西通り線、外）	街路	区画整理 A=14.7ha	■	■	■	■	■		458	
3	大宮駅西口第四地区(上落合桜木線、外)	街路	区画整理 A=9.7ha	■	■	■				262	
4	東浦和第二地区(田島大牧線、外)	街路	区画整理 A=76.7ha	■	■	■	■	■		3,946	
5	浦和東部第一特定地区(美園２号線、外)	街路	区画整理 A=55.9ha	■	■	■	■	■		2,136	
6	大門第二特定地区（東川口大門線、外）	街路	区画整理 A=76.3ha	■	■	■	■	■		902	
7	大谷口・太田窪地区（太田窪明花線、外）	街路	区画整理 A=28.2ha	■	■	■	■	■		691	
8	中川第一特定地区（南大通東線、外）	街路	区画整理 A=38.4ha		■	■	■	■		584	
9	島町西部地区（東大宮七里線、外）	街路	区画整理 A=40.0ha	■	■	■	■	■		3,600	
10	土呂農住特定地区（指扇宮ヶ谷塔線、外）	街路	区画整理 A=11.1ha	■	■	■	■	■		765	
11	岩槻駅西口地区（岩槻駅西口駅前通り線、外）	街路	区画整理 A=11.6ha			■	■	■		90	R2年度以前は防災・安全交付金で実施
12	指扇地区（指扇宮ヶ谷塔線、外）	街路	区画整理 A=29.9ha			■	■	■		1,400	R2年度以前は防災・安全交付金で実施
13	大和田特定地区（大宮岩槻線、外）	街路	区画整理 A=50.6ha			■	■	■		1,650	R2年度以前は防災・安全交付金で実施
14	七里駅北側特定地区（大間木丸ヶ崎線、外）	街路	区画整理 A=32.0ha			■	■	■		2,038	R2年度以前は防災・安全交付金で実施
15	浦和駅西口南高砂地区（浦和西口停車場線、外）	街路	再開発 A=1.8ha		■	■	■	■		6,028	再開発
16	大宮駅西口第３－Ｂ地区（桜木１号線、外）	街路	再開発 A=1.3ha	■	■	■	■	■		1,804	再開発
17	南与野駅南通り線	街路	S街路 L=0.2km	■	■	■	■	■		278	
18	桜木１号線	街路	S街路 L=0.03km		■	■	■	■		714	
19	氷川緑道西通線（北区間）	街路	S街路 L=0.5km	■	■	■	■	■		5,617	
20	七里駅南北自由通路	道路	市町村道 L=0.1km		■	■	■	■		3,000	
21	本町通り線（鈴谷2工区）	街路	S街路 L=0.8km	■						22	
22	指扇中央通線	街路	S街路 L=0.4km		■	■	■	■		1,245	
23	上落合桜木線	街路	S街路 L=0.2km	■	■	■	■	■		2,802	
24	桜木２号線	街路	S街路 L=0.1km	■	■	■	■	■		601	
25	指扇文化センター通り	道路	市町村道 L=0.1km			■	■	■		1,042	
									合計（25事業）	42,187	

3

（様式２）

A　市街地整備事業（基幹事業）

番号	要素となる事業名（事業箇所）	事業種別	事業内容（延長・面積等）	事業実施年度						全体事業費（百万円）	備考
				H31	R2	R3	R4	R5			
1	大宮駅西口第３－Ｂ地区第一種市街地再開発事業	市街地	再開発 A=1.3ha	■	■					1,130	
2	大宮駅西口第３－Ａ・Ｄ地区第一種市街地再開発事業	市街地	再開発 A=1.5ha	■	■	■	■	■		16,596	
3	浦和駅西口南高砂地区第一種市街地再開発事業	市街地	再開発 A=1.8ha	■	■	■	■	■		21,401	
4	与野駅西口土地区画整理事業	市街地	区画整理 A=8.3ha	■	■	■	■	■		1,500	
5	岩槻駅西口土地区画整理事業	市街地	区画整理 A=11.6ha		■	■	■	■		646	H31年度以前は他計画で実施
6	指扇土地区画整理事業	市街地	区画整理 A=29.9ha		■	■	■	■		2,050	H31年度以前は他計画で実施
7	大谷口・太田窪土地区画整理事業	市街地	区画整理 A=28.2ha		■	■	■	■		493	H31年度以前は他計画で実施
8	浦和駅西口南高砂地区第一種市街地再開発事業（防災・省エネまちづくり緊急促進事業）	市街地	再開発 A=1.8ha				■	■		19,043	
									合計（8事業）	62,859	

A　住環境整備事業（基幹事業）

番号	要素となる事業名（事業箇所）	事業種別	事業内容（延長・面積等）	事業実施年度						全体事業費（百万円）	備考
				H31	R2	R3	R4	R5			
1	住宅市街地基盤整備事業（浦和駅西口南）	住宅	（街路）田島大牧線（2工区）W＝25m、L＝680m		■	■	■			510	H31年度以前は他計画で実施
2	住宅市街地基盤整備事業（浦和東部第一）	住宅	（区画整理）大門中野田線他1路線 W＝16.8～29m、L＝1,081m		■	■				222	H31年度以前は他計画で実施
3	住宅市街地基盤整備事業（浦和駅西口南）	住宅	（街路）浦和西口停車場線 W=22m、L=109.9m		■	■	■	■		191	H31年度以前は他計画で実施
4	住宅市街地基盤整備事業（浦和駅西口南）	住宅	（街路）田島大牧線（太田窪工区）W＝25m、L＝762m		■	■	■	■		355	H31年度以前は他計画で実施
									合計（4事業）	1,278	

B　関連社会資本整備事業

1											
									合計（０事業）		

C　効果促進事業

1											
									合計（０事業）		

担当部局	都市局まちづくり推進部市街地整備課 TEL：048-829-1464　FAX:048-829-1976　E-mail：shigaichi-seibi@city.saitama.lg.jp

4

社会資本総合整備計画
事後評価説明資料

活力ある都市活動を支える都市基盤の整備（第２期）

令和８年１月

さいたま市都市局まちづくり推進部市街地整備課

5

1　計画の概要

■計画の経緯

～前計画～

活力ある都市活動を支える都市基盤の整備
【社会資本整備総合交付金】

計画期間：平成２６年度～平成３０年度

道路事業　：　３７事業
市街地整備事業　：　２事業

地域特性に合わせて市街地機能を高める安全で快適なまちづくり（第２期）
【社会資本整備総合交付金】

計画期間：平成２７年度～平成３１年度

市街地整備事業　：　９事業

住宅開発に係る基盤整備（第２期）
【社会資本整備総合交付金】

計画期間：平成２８年度～平成３１年度

住環境整備事業　：　１０事業

さいたま市の安全・安心な都市づくり（防災・安全）
【防災・安全交付金】

計画期間：平成２８年度～平成３２年度

道路事業　：　６事業

～本計画～

活力ある都市活動を支える都市基盤の整備（第２期）
【社会資本整備総合交付金】

計画期間：平成３１年度～令和５年度

道路事業　：　２５事業
市街地整備事業　：　８事業
住環境整備事業　：　４事業

本計画は、前計画の**「活力ある都市活動を支える都市基盤の整備」に他３つの整備計画の事業を包括した計画**となっている。

青色：社会資本整備総合交付金
橙色：防災・安全交付金

1　計画の概要

計画の名称	活力ある都市活動を支える都市基盤の整備（第２期）
計画の期間	平成31年度～令和５年度
計画の目標	１．無秩序な市街地拡大を抑制しながら適切に土地利用の増進を図り、市街地開発事業や都市基盤整備により、ゆとりある**良好な生活環境の形成**を目指します。 ２．商業・業務機能の集積や都心居住の推進など、土地の高度利用を進めるとともに、交通結節点や都市機能施設へのアクセス道路の整備により、**集約・ネットワーク型都市構造を実現**します。 ３．交通渋滞の緩和に向けた幹線道路の整備を促進するとともに、歩行者・自転車に配慮した安全で快適な道路空間を創出することにより、人と環境に配慮した**質の高い都市交通基盤づくりを促進**します。
計画の成果目標（定量的指標）	**指標１**：市街地開発事業における人口増加 **指標２**：交通結節点である駅の１日当たり平均利用者数の増加 **指標３**：事業が実施される地域における交通事故の発生件数
全体事業費	106,324百万円

※成果目標は、**前４計画の各事業を包括**して総合的に評価できるものを、**前計画から継続評価**としている。

1　計画の概要

■要素となる事業

A　道路事業（基幹事業）

番号	要素となる事業名（事業箇所）	事業種別	事業内容（延長・面積等）	事業実施年度				
				H31	R2	R3	R4	R5
1	南与野駅西口地区（南与野駅西口駅前通り線、外）	街路	区画整理 A=14.7ha	■	■	■	■	
2	南与野駅西口地区（南与野駅西通り線、外）	街路	区画整理 A=14.7ha	■	■	■	■	■
3	大宮駅西口第四地区(上落合桜木線、外)	街路	区画整理 A=9.7ha	■	■	■		
4	東浦和第二地区(田島大牧線、外)	街路	区画整理 A=76.7ha	■	■	■	■	■
5	浦和東部第一特定地区(美園２号線、外)	街路	区画整理 A=55.9ha	■	■	■	■	■
6	大門第二特定地区（東川口大門線、外）	街路	区画整理 A=76.3ha	■	■	■	■	■
7	大谷口・太田窪地区（太田窪明花線、外）	街路	区画整理 A=28.2ha	■	■	■	■	■
8	中川第一特定地区（南大通東線、外）	街路	区画整理 A=38.4ha		■	■	■	■
9	島町西部地区（東大宮七里線、外）	街路	区画整理 A=40.0ha	■	■	■	■	■
10	土呂農住特定地区（指扇宮ヶ谷塔線、外）	街路	区画整理 A=11.1ha	■	■	■	■	■
11	岩槻駅西口地区（岩槻駅西口駅前通り線、外）	街路	区画整理 A=11.6ha			■	■	■
12	指扇地区（指扇宮ヶ谷塔線、外）	街路	区画整理 A=29.9ha			■	■	■
13	大和田特定地区（大宮岩槻線、外）	街路	区画整理 A=50.6ha			■	■	■

番号	要素となる事業名（事業箇所）	事業種別	事業内容（延長・面積等）	事業実施年度				
				H31	R2	R3	R4	R5
14	七里駅北側特定地区（大間木丸ヶ崎線、外）	街路	区画整理 A=32.0ha			■	■	■
15	浦和駅西口南高砂地区（浦和西口停車場線、外）	街路	再開発 A=1.8ha		■	■	■	■
16	大宮駅西口第３－Ｂ地区（桜木１号線、外）	街路	再開発 A=1.3ha	■	■	■	■	■
17	南与野駅南通り線	街路	S街路 L=0.2km	■	■	■	■	■
18	桜木１号線	街路	S街路 L=0.03km		■	■	■	■
19	氷川緑道西通線（北区間）	街路	S街路 L=0.5km	■	■	■	■	■
20	七里駅南北自由通路	道路	市町村道 L=0.1km		■	■	■	■
21	本町通り線（鈴谷2工区）	街路	S街路 L=0.8km	■				
22	指扇中央通線	街路	S街路 L=0.4km		■	■	■	■
23	上落合桜木線	街路	S街路 L=0.2km	■	■	■	■	■
24	桜木２号線	街路	S街路 L=0.1km	■	■	■	■	■
25	指扇文化センター通り	道路	市町村道 L=0.1km			■	■	■
								合計（25事業）

1　計画の概要

■要素となる事業

A　市街地整備事業（基幹事業）								
NO	要素となる事業名（事業箇所）	事業種別	事業内容（延長・面積等）	事業実施年度				
				H31	R2	R3	R4	R5
1	大宮駅西口第３－Ｂ地区第一種市街地再開発事業	市街地	再開発 A=1.3ha	■	■			
2	大宮駅西口第３－Ａ・Ｄ地区第一種市街地再開発事業	市街地	再開発 A=1.5ha	■	■	■	■	■
3	浦和駅西口南高砂地区第一種市街地再開発事業	市街地	再開発 A=1.8ha	■	■	■	■	■
4	与野駅西口土地区画整理事業	市街地	区画整理 A=8.3ha	■	■	■	■	■
5	岩槻駅西口土地区画整理事業	市街地	区画整理 A=11.6ha		■	■	■	■
6	指扇土地区画整理事業	市街地	区画整理 A=29.9ha		■	■	■	■
7	大谷口・太田窪土地区画整理事業	市街地	区画整理 A=28.2ha		■	■	■	■
8	浦和駅西口南高砂地区第一種市街地再開発事業（防災・省エネまちづくり緊急促進事業）	市街地	再開発 A=1.8ha				■	■
合計（8事業）								

A　住環境整備事業（基幹事業）								
NO	要素となる事業名（事業箇所）	事業種別	事業内容（延長・面積等）	事業実施年度				
				H31	R2	R3	R4	R5
1	住宅市街地基盤整備事業（浦和駅西口南）	住宅	（街路）田島大牧線（2工区）W＝25m、L ＝680m		■	■	■	
2	住宅市街地基盤整備事業（浦和東部第一）	住宅	（区画整理）大門中野田線他1路線 W＝16.8～29m、L ＝1,081m		■	■		
3	住宅市街地基盤整備事業（浦和駅西口南）	住宅	（街路）浦和西口停車場線 W=22m、L=109.9m		■	■	■	■
4	住宅市街地基盤整備事業（浦和駅西口南）	住宅	（街路）田島大牧線（太田窪工区）W＝25m、L ＝762m		■	■	■	■
合計（4事業）								

1　計画の概要

■事業箇所

道路事業（25事業）
市街地整備事業（8事業）
住環境整備事業（4事業）
氷川緑道西通（北区間）
A01-019
島町西部地区
A01-009
岩槻駅西口地区
A01-011, A13-030
七里駅自由通路
A01-020
文化センター通り
A01-025
指扇中央通線
A01-022
大和田特定地区
A01-013
七里駅北側特定地区
A01-014
土呂農住特定地区
A01-010
桜木２号線
A01-024
桜木１号線
A01-018
上落合桜木線
A01-023
指扇地区
A01-012, A13-031
大宮駅西口第3-A･D地区
A13-027
大宮駅西口第四地区
A01-003
中川第一特定地区
A01-008
大宮駅西口第3-B地区
A01-016, A13-026
与野駅西口地区
A13-029
本町通り線
（鈴谷2工区）
A01-021
南与野駅西口地区
A01-001, A01-002
田島大牧線
（太田窪工区）
A16-036
浦和東部第一団地
浦和東部第一特定地区
A01-005, A16-034
大門第二特定地区
A01-006
東浦和第二地区
A01-004
浦和駅西口南団地
南与野駅南通り線
A01-017
田島大牧（2工区）
A16-033
大谷口・太田窪地区
A01-007, A13-032
浦和西口停車場線
A16-035
浦和駅西口南高砂地区
A01-015, A13-028, A13-037
1/70000
7km

2　主な事業の成果

市街地再開発事業

大宮駅西口第3－B地区（大宮桜スクエア）
事業内容：市街地再開発事業
事業期間：H29～R7
総事業費：約406億円
　市街地再開発事業による基盤整備を行うことで安全・安心で快適な生活環境を形成した。

土地区画整理事業

南与野駅西口土地区画整理事業
事業内容：土地区画整理事業
事業期間：H7～R10（区画整理）
総事業費： 約121億円（区画整理）
　土地区画整理事業により質の高い都市基盤の整備と計画的な市街地の形成した。

2　主な事業の成果

道路事業

七里駅周辺のまちづくり

事業内容：土地区画整理事業
　　橋上駅舎化・自由通路整備
事業期間：H14～R19（区画整理）
総事業費：約183億円（区画整理）
　区画整理と連動した七里駅の橋上化及び南北自由通路の整備を進め、地域の利便性の向上や安全で快適な道路空間の整備を行った。

街路事業

田島大牧線（太田窪工区）

事業内容：街路整備事業
事業期間：H21～R9
総事業費：約121億円
　無歩道2車線の狭幅道路から4車線の道路ネットワークを形成し、交通の円滑化、浦和駅へのアクセス向上、防災機能の向上および安心安全な歩道空間等の確保を図った。

３．事後評価　指標１：市街地開発事業における人口増加

（１）目標

無秩序な市街地拡大を抑制しながら適切に土地利用の増進を図り、市街地開発事業や都市基盤整備により、ゆとりある**良好な生活環境の形成**を目指す。

（２）定量的指標

①定義

市街地開発事業が実施される地域における人口　※前計画から継続

※市街地開発事業の区域が含まれる大字単位で集計

②指標設定の考え方

市街地開発事業等による**基盤整備により、事業区域内の人口定着が期待**できる。

③目標値

過去５年間（H26～H29※H30は特異値のため削除）の対象地区の合計人口の伸びを踏まえ、線形回帰にて算出した値。

従前値	最終目標値（R5）	増加率
174,662人（H30）	192,261人	＋10.1%

３．事後評価　指標１：市街地開発事業における人口増加

（3）指標の結果

市街地開発事業が実施される地域における人口は、平成30年度以降増加し続けているが、令和５年度目標値に対して達成率は95.0%となり、**目標値は達成できなかったが、**市街地開発**事業の実施地区においては、さいたま市全域の人口増加率3.7%よりも多い4.6%**となっている。

H30従前値	R5目標値（増加率）	R5実測値（増加率）	達成率
174,662人	192,261人（10.1%）	182,639人（4.6%）	95.0%

３．事後評価　指標１：市街地開発事業における人口増加

（４）結果の分析　＜区画整理事業＞

※各地区が含まれる地域（大字単位）での人口推移を目標値、市平均と比較し結果を分析した。

A：①目標達成３地区、②市の平均人口増加率以上５地区　の人口が増加した理由

・住宅地で保留地処分が進んだ　・駅周辺地区で土地の高度利用がされた　※保留地処分は事業終盤に行われることが多い

B：③目標未達成かつ市の平均人口増加率以下６地区　の人口が伸び悩んだ理由

・住宅地だが保留地処分があまり進まなかった

本計画の期間

	結果	地区名	事業期間	事業進捗(%)（公共施設費）	保留地処分面積(㎡)(計画期間中)
A	①目標達成３地区	南与野駅西口地区	H 7～R10	77.3%	0
		浦和東部第一特定地区	H12～R16	79.8%	8727.1
		大門第二特定地区	H 4～R12	60.8%	2171.4
	②目標未達成だが、市平均を上回る５地区	与野駅西口地区	S43～R15	81.5%	—
		大谷口・太田窪地区	H 7～R12	46.7%	950.2
		島町西部地区	H21～R15	80.6%	4669.9
		大和田特定地区	H 7～R18	86.1%	6052.7
		東浦和第二地区	H10～R12	50.9%	5222.6
B	③目標未達成かつ市平均を下回る６地区	大宮駅西口第四地区	H 7～R10	76.7%	—
		指扇地区	H17～R11	45.0%	253.6
		土呂農住特定地区	H 4～R 9	81.9%	19
		中川第一特定地区	H12～R 8	31.7%	472.1
		岩槻駅西口地区	H 9～R17	67.9%	—
		七里駅北側特定地区	H14～R19	61.1%	0

＜再開発事業＞

未達成３地区　の人口が伸び悩んだ理由　**・本計画の期間内に施設建築物（再開発ビル）が建たなかった**

本計画の期間

結果	地区名	事業期間	事業進捗
目標未達成３地区	大宮駅西口第３－Ａ・Ｄ地区	R3～R9	R4.3組合設立認可　権利変換計画に向けて地権者と調整中
	大宮駅西口第３－Ｂ地区	H28～R7	R3.1施設建築物新築工事着手　工事中
	浦和駅西口南高砂地区	H25～R9	R5.1施設建築物新築工事着手　工事中

３．事後評価　指標２：交通結節点である駅の１日当たり平均利用者数（乗降客数）の増加

（１）目標

商業・業務機能の集積や都心居住の推進など、土地の高度利用を進めるとともに、交通結節点や都市機能施設へのアクセス道路の整備により、**集約・ネットワーク型都市構造を実現**します。

（２）定量的指標

①定義

対象とする駅における１日あたりの平均利用者数（乗降客数）　※前計画から継続

②指標設定の考え方

市街地開発事業等による**交通結節点へのアクセス道路の整備が進み、鉄道駅の乗降客数が増加が期待**できる。

③目標値

対象とする各駅の過去５年間(H24～H28)の乗降客数の伸びの傾向を踏まえ、対数回帰にて算出した値。

従前値（H28）	最終目標値（R5）	増加率
1,197,590人	1,226,393人	＋2.4%

単位：人

	対数						
	2017（H29）	2018（H30）	2019（H31）	2020	2021	2022	2023
大宮	686,180	688,940	691,330	693,439	695,325	697,032	698,590
南与野	35,324	34,959	35,261	35,523	35,754	35,961	36,148
浦和美園	16,154	16,645	17,071	17,447	17,783	18,087	18,364
大宮公園	9,921	9,891	9,865	9,842	9,821	9,802	9,785
浦和	180,644	182,401	183,924	185,266	186,467	187,554	188,545
岩槻	35,906	35,939	35,967	35,992	36,015	36,035	36,054
西大宮	18,596	19,004	19,358	19,670	19,949	20,201	20,431
大和田	19,682	19,771	19,848	19,916	19,976	20,031	20,081
七里	20,629	20,627	20,626	20,624	20,623	20,622	20,621
東大宮	65,470	65,635	65,778	65,905	66,018	66,120	66,213
東浦和	56,476	56,671	56,840	56,989	57,122	57,243	57,353
与野	52,650	52,996	53,297	53,561	53,798	54,012	54,208
合計	1,197,632	1,203,479	1,209,165	1,214,174	1,218,651	1,222,700	1,226,393

（3）指標の結果

対象駅における一日当たり平均利用者数は、令和元年末からの**コロナ禍の外出自粛で乗降客数が減少**し、令和５年度時点では**回復しきれず、目標値を達成できなかった**。

しかし、目的とするアクセス道路の整備による集約・ネットワーク型都市構造を実現については、事業によって**道路整備が進んでいることから、目標の実現には着実に近づいている**。

また、本指標については、次期計画でも継続して評価することから**次期計画の結果を期待**する。

H28従前値	R5目標値（増減率）	R5実測値（増減率）	達成率
1,197,590人	1,226,393人（2.4%）	1,167,290人（-2.5%）	95.2%

３．事後評価　指標３：地域における交通事故（歩行者・自転車）の発生件数

（１）目標

交通渋滞の緩和に向けた幹線道路の整備を促進するとともに、歩行者・自転車に配慮した安全で快適な道路空間を創出することにより、**人と環境に配慮した質の高い都市交通基盤づくりを促進**します。

（２）定量的指標

①定義

事業が実施される地域における交通事故（歩行者・自転車）の発生件数

※市街地開発事業および道路・街路事業の区域が含まれる大字単位で集計

※前計画から継続

②指標設定の考え方

市街地開発事業等による基盤整備により、歩行者・自転車に配慮した**安全で快適な道路空間が増え、交通事故件数（歩行者・自転車）の減少が期待**できる。

③目標値

対象地域の過去５年間（H26～H30）の歩行者・自転車事故件数の傾向を踏まえ、対数回帰で目標値を算定した。

従前値（H30）	最終目標値（R5）	減少率
337件	287件	-14.8%

（３）指標の結果

事業実施地域における交通事故（歩行者・自転車）の発生件数は、令和元年末からの**コロナ禍の外出自粛により事故件数も大きく減少**したものの、コロナ禍が収束に向かうとともに事故件数も増加した。**目標は達成できなかったが、従前地よりは減少**している結果となった。

また、**事業自体は着実に進んでおり、目標とする質の高い都市交通基盤づくりは進んで**いる。

H30従前値	R5目標値（増減率）	R5実測値（増減率）	達成率
337件	287件（-14.8%）	311件（-7.7%）	92.3%

３．事後評価　指標３：地域における交通事故（歩行者・自転車）の発生件数

（４）結果の分析

■水色の網掛け部

目標達成地区：１３地区

区画整理　：　６地区
再開発　　：　１地区
道路・街路：　６地区

■桃色の網掛部
目標未達成かつ
大きく事故件数が増加した地区
（５件以上増加）：**３地区**

⇒うち２地区について
次頁で場所を確認

※七里駅南北自由通路は、
駅構内の通路であり、
事故件数は明らかに事業
地区外のものであるため
除く。

種別	事業名	事故件数 当初値	事故件数 目標値	事故件数 評価値	事故件数 増減件数	増減率
区画整理	岩槻駅西口地区	15	13	7	-8	-53.3%
	島町西部地区	6	5	3	-3	-50.0%
	土呂農住特定地区	31	26	18	-13	-41.9%
	指扇地区	20	17	14	-6	-30.0%
	大宮駅西口第四地区	13	11	10	-3	-23.1%
	与野駅西口地区	8	7	7	-1	-12.5%
	七里駅北側特定地区	34	29	31	-3	-8.8%
	南与野駅西口地区	9	8	9	0	0.0%
	大門第二特定地区	12	10	13	1	8.3%
	中川第一特定地区	19	16	21	2	10.5%
	東浦和第二地区	27	23	32	5	18.5%
	大和田特定地区	44	37	53	9	20.5%
	浦和東部第一特定地区	14	12	17	3	21.4%
	大谷口・太田窪地区	15	13	21	6	40.0%
再開発	浦和駅西口南高砂地区	6	5	2	-4	-66.7%
	大宮駅西口第３－B地区	11	9	13	2	18.2%
	大宮駅西口第３－A･D地区	11	9	13	2	18.2%
道路・街路	南与野駅南通り線	1	1	0	-1	-100.0%
	上落合桜木線	2	2	1	-1	-50.0%
	指扇中央通線	20	17	14	-6	-30.0%
	指扇文化センター通り	40	34	29	-11	-27.5%
	氷川緑道西通線（北区間）	20	17	17	-3	-15.0%
	浦和駅西口南団地	29	25	25	-4	-13.8%
	本町通り線（鈴谷２工区）	12	10	11	-1	-8.3%
	桜木１号線	11	9	13	2	18.2%
	桜木２号線	11	9	13	2	18.2%
	七里駅自由通路	4	3	12	8	200.0%

目標値
-14.8%

令和５年事故発生マップ

右の図は、事故発生件数が大きく増加した３地区のうち２地区の事故発生位置を示したマップである。

- **区画整理地区内ではほとんど事故が発生していない**ことが確認できたため、事業により道路整備が進み事故が抑制されたことがわかる。
- **指標値の抽出条件が、事業区域が含まれる大字単位の地域での事故発生件数としたため、事業区域外の影響を大きく受けた**ことがわかる。
- 一方で、事業地区の縁辺地で多く事故が発生しているため、対策の検討の必要性が確認できた。

自転車事故分布図

歩行者事故分布図

出典：埼玉県警察 事件事故発生マップより

４．今後の方針

今後の方針

・目標指標は達成しなかったものの、事業の目標達成に向かっては着実に進んでいるので、事業を進めさらなる効果促進を図る。
・次回の計画策定時に以下の目標指標の見直しを検討する。

指標１：市街地整備事業は事業進捗等によっても人口増減に影響する。
⇒**事業の進捗や社会環境等を踏まえて、より現実的な目標値とする。**

指標２：コロナ禍を経て多様な働き方（在宅勤務など）が定着。
⇒**コロナ沈静後の新たな社会状況を基準に、駅の乗降客数の目標値とする。**

指標３：調査対象区域の広範さから、本計画の事業効果が適切に反映されていない恐れがある。また、事業区域の事故発生数は僅かで、その絶対数の推移を目標にしても事業効果を適切に反映できない恐れがある。
⇒**調査対象区域を市街地整備事業の事業区域に設定した上で、道路延長当たりの事故数といった単位当たり数量の採用や、事業区域内の数値と市内（区内）との対比など事業効果の適切な反映方法を検討する。**